第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

クロサンショウウオ

Hynobius nigrescens Stejneger, 1907

松井正文（京都大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：松井正文，2026．クロサンショウウオ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 632-636．

Citation: Matsui, M., 2026. *Hynobius nigrescens* Stejneger, 1907. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 632-636.

有尾目 Caudata　サンショウウオ科 Hynobiidae　　日本固有

クロサンショウウオ

***Hynobius nigrescens* Stejneger, 1907**

カテゴリー判定結果　準絶滅危惧（NT）　①②

基準 A:　VU 未満	基準 B:　VU 未満	基準 C:　―	基準 D:　―	基準 E:　―

生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。
具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。
①個体数が減少している。
【判断理由】
どの地域でも生息環境は悪化して個体数は減少している。新潟県周辺では 10 年間で産卵数が 2 割減少したことが報告されている。

②生息条件が悪化している。
【判断理由】
水田整備、農薬散布、ゴルフ場化、観光地化、森林伐採、林道工事など生息地の破壊，放流された外来魚による幼生への食害が生存に悪影響を及ぼしている。岩手県、岐阜県、石川県などでは生息環境の劣化・消失により生息状況が悪化した事例が知られている。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

　本種はトウホクサンショウウオとともに、東日本の代表的サンショウウオであったが、各種の環境劣化によって個体数・分布域が減少している。

基礎情報

【形態】

全長は雄で 71～157 mm、平均 146 mm 程度、雌で 108～147 mm、平均 131 mm 程度。鋤骨歯列はU字型のことが多い。四肢は長く、前後肢を体側に沿って折り返すと、前後肢は重なり合う。尾は長くて側偏する。背面は褐色か緑褐色で濃褐色の小さな斑点をもつことがある。卵嚢は紡錘型で外被は白いのが普通だが透明に近いこともある。

【生活史】

2～7 月頃に繁殖する。産卵数は 20～70 個。幼生は貪欲でよく共食いをし、幼生で越冬することも多い。新潟県産の 1 個体群では、成熟して繁殖に参加するのは雄で 5～6 歳、雌で 7～8 歳の個体が多く、年老いた個体は 10 年以上生存して繁殖に参加すると推定された。

【生息環境】

池、沼、水路など、比較的水深のある水体で繁殖する。

生息環境区分：	【陸域_高標高地 中標高地 低標高地】森林，田地・畑地，耕作放棄地，農業用水路，湿地・湿原・細流，ため池・池沼 【陸域_平地部 海岸部】森林，田地・畑地，耕作放棄地，湿地・湿原，ため池・池沼
国土地域区分：	（1）奥山自然地域，（2）里地里山・田園地域

【分布域】

東北・北陸・近畿（滋賀県は西限）と、関東・中部の一部に分布し、海岸近くから高山の標高 2,500 m 以上にまで生息する。埼玉県の記録は誤りの可能性が高い。

現在の生息状況

【分布域の現況】

分布域は過去と大きく違わないが、どの地域でも生息環境は悪化して個体群は減少している。佐藤（1943）が分布地点に挙げた長野県諏訪郡平野村（現在岡谷市）は本種の南限の一部であるが、現在諏訪湖の近傍の低地では生息環境がなくなり、かつて繁殖場所であったと思われる池は鯉等の養殖に用いられていることが多い。

【生息地の現況】

岩手県下では、繁殖池の水質汚濁、魚の養殖への利用や、森林伐採によって湿地や沼の水枯れが生じ、繁殖池周辺の開発整備によって、周囲の森林生息域と分断されて産卵数が減少した。岐阜県下でも、多くの生息地で湿原の乾燥化、夏緑樹林帯の減少、道路などの建設、改修によって生息環境が悪化・消失している。また、石川県下でも平野部で開発によって生息域が一部減少している。

【個体数の現況】

新潟県下を中心とした地域の 10 年間の繁殖状況の調査結果によれば、特に低地では産

卵数が 2 割ほど減少したという報告があった。現在も個体数は減少の方向に動いていると推察される。

存続を脅かす要因

水田整備、農薬散布、ゴルフ場化、観光地化、森林伐採、林道工事など生息地の破壊、放流された外来魚による幼生への食害が生存に悪影響を及ぼしている。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，圃場整備，ゴルフ場，土地造成，交通インフラ建設，農薬汚染/化学物質汚染，捕獲・狩猟/園芸採取
	（現在）	森林伐採，圃場整備，ゴルフ場，土地造成，交通インフラ建設，農薬汚染/化学物質汚染，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（外来種による）

特記事項

特になし。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	クロサンショウウオ	*Hynobius nigrescens*	NT
第４次 2019：	クロサンショウウオ	*Hynobius nigrescens*	NT
第４次 2018：	クロサンショウウオ	*Hynobius nigrescens*	NT
第４次 2017：	クロサンショウウオ	*Hynobius nigrescens*	NT
第４次 2015：	クロサンショウウオ	*Hynobius nigrescens*	NT
第４次：	クロサンショウウオ	*Hynobius nigrescens*	NT
第３次：	クロサンショウウオ	*Hynobius nigrescens*	NT
第２次：	—	—	—
第１次：	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【青森県】希少野生生物(C ランク),【岩手県】準絶滅危惧,【宮城県】絶滅のおそれのある地域個体群(LP),【山形県】準絶滅危惧(NT),【福島県】準絶滅危惧(NT),絶滅のおそれのある地域個体群(LP)(阿武隈高地のクロサンショウウオ),【茨城県】絶滅危惧Ⅱ類,【栃木県】準絶滅危惧(C ランク),【群馬県】準絶滅危惧(NT),【埼玉県】情報不足(DD),【新潟県】準絶滅危惧(NT),【福井県】県域準絶滅危惧,【長野県】準絶滅危惧(NT),【岐阜県】絶滅危惧Ⅱ類

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

指定なし

参考文献

- 秋田喜憲，2010．宝達山系におけるサンショウウオ類の生態と現状．両生類誌，29: 27-29.
- Matsui, M., H. Iwasawa, H. Takahashi, T. Hayashi, and M. Kumakura, 1992. Invalid specific status of *Hynobius sadoensis* Sato: Electrophoretic evidence (Amphibia: Caudata). J. Herpetol., 26(3): 308-315.
- Matsui, M., Yoshikawa, N., Aoki, G., Sasamori, K., Matsui, Mm., Tanabe, S., Misawa, Y., and Nishikawa, K., 2020. Wide distribution but low differentiation: Phylogenetic relationships and phylogeography of *Hynobius nigrescens* (Amphibia: Caudata). Zool. Sci., 37(6): 529-537.
- Sato, I., 1940. On *Hynobius* from Sado Island. Bull. Biogeogr. Soc. Jpn., 10(11):163-170.
- 関慎太郎・水戸直．2023．滋賀県初記録のクロサンショウウオについて．爬虫両棲類学会報，2023(2):165‐169.
- 高橋 久，2001．最近 10 年間でのクロサンショウウオの減少と産卵環境の変化．両生類誌，6:1-6.
- 高橋 久，2008．新潟県弥彦角田山系クロサンショウウオの産卵状況．両生類誌，18: 31.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hynobius nigrescens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hynobius nigrescens* is listed as NT under criteria ①②.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

①The number of individuals is decreasing.

②Habitat conditions are deteriorating.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_High-altitude area, Mid-altitude area, Low-altitude area】Forest, Farmland, Abandoned farmland, Agricultural ditch, Wetland/Marsh/Stream, Reservoir/Pond 【Terrestrial/Freshwater area_Plain, Beach】Forest, Farmland, Abandoned farmland, Wetland, Reservoir/Pond
Threat types:	Logging and wood harvesting, Field preparation, Golf course development, Land development, Transportation infrastructure construction, Pesticide/Toxic chemical pollution, Hunting and collecting animals/Gathering plants, Predation (by alien species)
Law designation status for conservation	―



執筆者:	松井正文（京都大学）
Author:	Masafumi Matsui

公表年月：2026 年 3 月